

資質向上薬事講習に233名 広島配置連 県当局と薬剤師会の協力得て



233名が受講した資質向上薬事講習会。広島市文化交流会館

一般社団法人広島県配置医薬品連合会（小島恒治会長）の平成二十三年度第二回広島県資質向上薬事講習会は、十月十三日午前九時から広島市中区加古町の広島市文化交流会館で開かれ、二百三十三名が受講した。

講習会は、広島県健康福祉局業務課と（株）広島県薬剤師会の協力を得て開催。門那良三副会長の司会を始められ、小島恒治会長があい

さつで、今年度の登録販売者試験合格者を祝った。講義に入り、まず「カゼのシーズンによく使われる漢方薬」と題して二反田薬品工業（株）の二反田正弘社長が六十分間にわたり専門的な講義をおこなった。

ついで、献血についての講話が十五分間、県業務課の佐々木担当官からあった。引き続き、食中毒等の講話が食品衛生の専門家でも午後一時から午後

ある県業務課の中村講師から六十分間にわたりあった。中村講師は、実例を挙げながらウイルスに関する事など解りやすく説明した。続いて、行政連絡事項およびテキスト第一章「医薬品に共通する特性と基本的な知識」についての講義を薬務課の森木専門員から受けた。森木講師は、冒頭、

既存配置販売業者に課せられた毎年三十時間以上受講の資質向上講習について、「県業務課として、広島連合会と一丸となって進めるので、必ず受講をするように」と促した。講義では、第一章の重要ポイントを抜粋し、巧みに編集してパワーポイントに映し出し六十分間にわたり講義。

そのあと、県業務課作成の三十問の確認テストを実施、解答した者から昼休みに入った。

午後一時から午後

を開始。テキスト第五章「医薬品の適正使用と安全対策」について、県薬剤師会事務局長の石原長造広島大学・福山大学非常勤講師が、テキストを中心に最新情報や広島県薬剤師会の薬事情報センターの活用法、登録販売者制度などについて、前薬務課長ならでの配置販売業に關しての講義を百二十分にわたり行った。講義の終わりには、「配置業の生産額は少ないが、配置は重要な役割を果たしている。信頼される配置販売従事者には専門家として、研修の受講が重要。自覚と誇りを持って日々の仕事をしたい」と叱咤激励した。

つぎに、DVD「最近の健康情報」を五十分上映。続いて、テキスト第二章「人体の働きと医薬品」から医薬品の副作用について、小池一正薬剤師がパワーポイントを使って、六十分間講義。

登録販売者の小島会長が四十分間講義。広島連合会が実施する研修会運営の実態や通信教育テキスト等についても、スライドを映写しながら説明した。

広島連合会では、十一月十日開催の総会時に、身分証等の申請受付も行うこと

について協議した。また、業界の混乱についても意見を交換。一日も早く業界の実態に即した薬事法改正を求めべきだが、組織の分裂や告訴などの業界情報に、業界として法改正を求めるための土台を築く意見や、「業界組織がおかしな事になっていく」「理解不能だ」「不思議を感じる」などの意見も聞かれた。

最後に、広島県を代表する法人格を持つ配置団体として会員が一致団結して前進することを確認して午後八時過ぎに閉会した。

十時間研修については、外部委託を行わず、県業務課・県薬剤師会・県病院・製薬メーカー等の協力と指導を受け、全く独自に委員会（委員長・小池一正薬剤師）が計画・実施している。これについて小島会長は、「計画・実行ノウハウの蓄積も進んだ」として、厚労省が求める三十時間研修の担保に自信を深めている。

なお当日は、研修会会場玄関に献血車を手配し献血を実施した結果、四十八名（成分十四名・四〇〇ml三十四名）が献血した。

また、会場には、薬と健康の週間や「ダメ。ゼッタイ。」のポスター、登録販売者試験結果集計、通信教育合格結果、本日新聞などを掲示し情報を提供。さらに、研修の休憩時間に車椅子贈呈式の様子をスライドで映写しながら、募金を募った。

他団体に加入せず独自に

他団体に加入せず独自に